

# 県産水産物消費拡大事業

徳田 眞孝・濱田 豊市

近年、漁業者や漁協が主催・参加して行う直販の活動が県内で盛んになっている。直販の商品は、新鮮度の水産物であること、生産者の顔が見え安心であること等、量販店では対応できない消費者ニーズに応える特徴を持っている。今後、直販の役割は、漁業者と消費者を直接結ぶ新たな流通チャネルとして、ますます大きくなっていくものと思われる。

本事業は、県産水産物の消費拡大のために、新鮮で美味しい水産物を入手できる直売所の情報を広く県民に提供することを目的としており、その一環として、県内直売所における水産物販売の実態を調査したので報告する。

## 方 法

県内の直接販売の実態を把握するため、漁協や漁業者がグループ単位となって主催もしくは参加して水産物を出荷している直売所（ただし、個人経営のもの、参加漁業者がごく少人数のもの、及びカキ等の単品種の取り扱いのものは除く、以下「直売所」という）を対象に、運

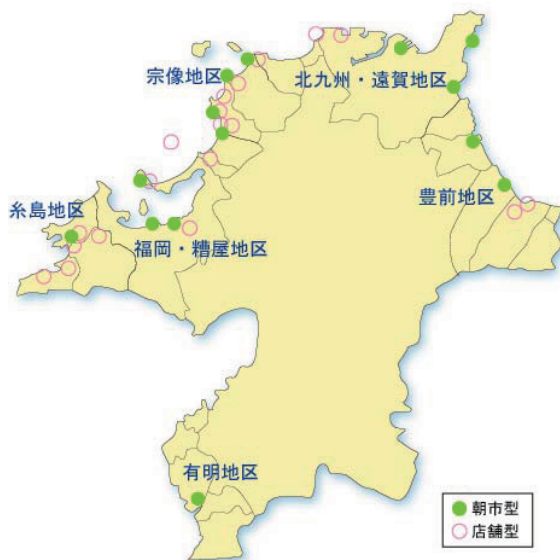


図1 直売所の位置

営形態、販売実績、漁業者の参加形態等について、直売所の運営者、漁協、参加漁業者等に聞き取り調査を行った。直売所の種別については、朝市・夕市のように定期的に開催する直販市を朝市型、施設を構えて常時販売している直売所を店舗型として集計した。なお、北九州市内の豊前海区に面している直売所は、豊前地区として集計した。

## 結果及び考察

調査対象とした水産物を販売している直売所の位置を図1に、開設数の推移を図2に示した。平成3年頃から増加した直売所は、近年、店舗型は増加傾向、朝市型は減少傾向にあったが、平成20年には豊前地区で「曾根漁協日曜朝市」、平成21年には「漁師の店ひしゃくだ」の朝市型の直売所が新しく開設され、新たな取り組みもみられる。

直売所における水産物の販売額の推移を図3に、地区別販売額の推移を図4に示した。平成20年度の販売額は、朝市型は前年から約3.5%減の約9千万円、店舗型は前年から約40%増の約15億9千万円で、全体では約16億8千万円と約35%増加した。地区別では、宗像地区が特に大きく増加し、糸島地区、豊前地区も前年を上回った。

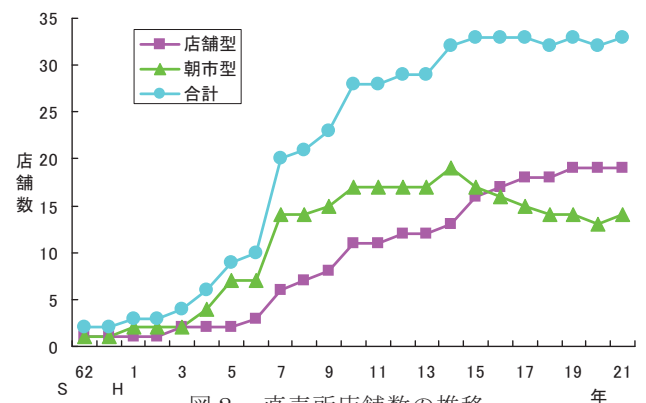


図2 直売所店舗数の推移

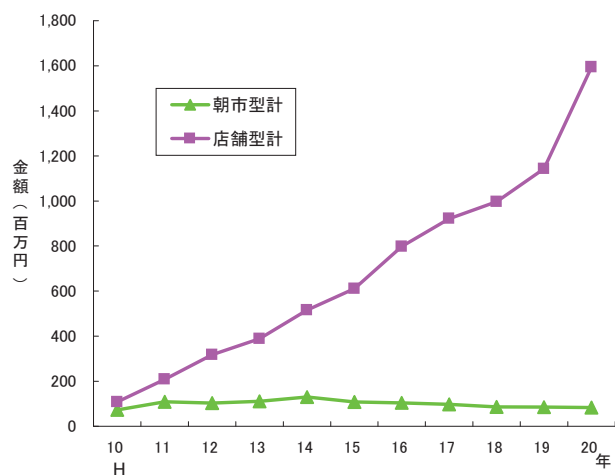


図3 直売所の販売額の推移

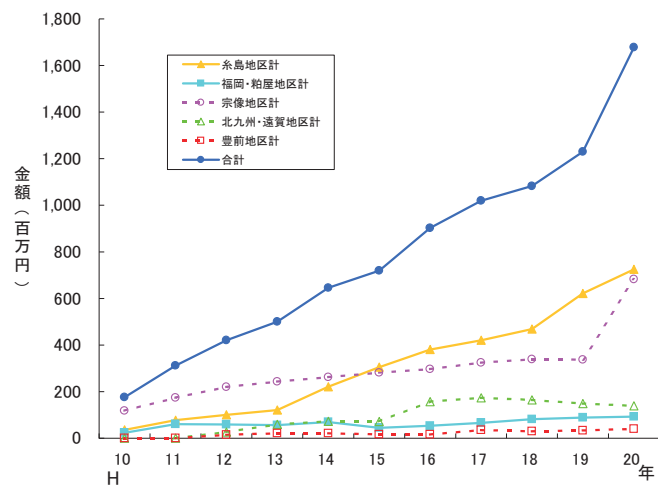


図4 直売所の地区別販売額の推移